

# 活動報告書

報告者氏名: 向山 和子 所属: 大阪教育大学附属特別支援学校 記録日: 2014年2月27日

## 【対象生徒の情報】

### ・学年

高等部 2年女子

### ・障害名

自閉性障害（精神遅滞）

### ・障害と困難の内容

自発的に会話をすることや友だちや周囲の人に自ら関わるのが難しい。

自分のペースを乱されたり、予定を変更されたりすることが苦手。

活動内容の理解や実行について、個別のことばかけによる確認が必要。

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

自発的に自分の思いを表現したり、友だちとの関わりを楽しんだりして欲しい、楽しめる余暇活動を見つけて欲しいという保護者の願いより、コミュニケーションスキルを向上させたいと考えた。さらに卒業後の生活を考慮すると、自立のための社会のルールやマナーの習得も必要であるが、今年度は、困難な状況になったとしても支援を求めることができるように、伝言や報告の習慣を身に付けることを目標とした。高校生としての自立心も芽生え、自分で判断し行動したいという本人の思いを大切に、iPadの活用による漢字学習方法の習得、スケジュールの管理についての学習、記録や報告についての学習、コミュニケーションスキルの獲得をねらいとした。その中でもコミュニケーションスキルの獲得を重点とし、アプリ「LINE」を活用して、支援を行うようにした。

### ・実施期間

5月～2月

### ・実施者

大西裕也 向山和子 及び 高等部教員

### ・実施者と対象児の関係

担任 及び 教科・領域担当

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ・対象生徒の事前の状況

高等部入学を機にiPadを購入し、主にYouTubeやインターネット検索を中心に使用していた（ローマ字入力可）。iPadの利用については一般的な操作は可能であり、必要なアプリも覚えて使用したり、自発的に自分の興味あるものを調べたりすることができる。かわいいキャラクターや動物、ファッションなどに興味がある。

## ・活動の具体的内容

学校や家庭だけでなく、デイサービスの支援員と教員が情報交換を行い、周囲の理解のもと校外でも iPad を使用できるようにした。

- ①学習支援・・・途中で間違いやわからない漢字があっても「筆順辞典」を用いることで一人でも落ち着いて学習を行う。
- ②スケジュール管理・・・「Those Days」を用いて振り返りを行う。標準アプリ「リマインダー」等を活用してスケジュールの確認方法を学ぶ。
- ③記録・・・「見た目日記」を用いて日々の体重管理を行う。「カメラ」を用いて日々の記録を行う。
- ④コミュニケーション・・・「LINE」「Our Story」「Skype」を活用し、伝達手段について学習する。コミュニケーションの話題検索として「Safari」を活用する。

	学習	スケジュール管理	記録	コミュニケーション
アプリの種類	 無料 「筆順辞典」	 有料版 300 円 「Those Day」	 オプションごとに課金 「見た目日記」	 標準アプリ 「Safari」
		 標準アプリ 「リマインダー」	 標準アプリ 「カメラ」	 無料 「LINE」
		 標準アプリ 「カレンダー」		 無料 「Skype」
				 無料 「Our Story」

## ・対象生徒の事後の変化

- ①漢字検定の学習において、学習を始めたころはわからない漢字があったり、間違いを指摘されたりすると本人が気になるため支援が必要であったが、現在は自らアプリですぐに調べることができるようになり、一人で落ち着いて取組めるようになってきた。
- ②少し前の出来事については問いかけに工夫が必要であったが、日々撮っている写真を「Those Days」で確認することで自ら振り返りがしやすくなった。日々のスケジュール確認に関してはまだことばかけ等の支援が必要であるが、「リマインダー」や「カレンダー」の操作や確認を行うことができるようになってきた。
- ③毎日の体重管理の記録について、グラフ化にあたり支援が必要だった。「見た目日記」を用いることでグラフでの確認がしやすくなり、体重の増減を支援なしで確認できるようになった。「カメラ」をほぼ毎日使用し、記録を自分で撮ったり、撮ってもらったりして確認できるようになってきた。
- ④「LINE」を使って自分の感情を上手く相手に伝えることができるようになってきた。「タイムライン」の内容をホームルームでの発表や感想文の参考にするようになった。授業や「交流及び共同学習」で「Our Story」「Skype」といったアプリを使用することで伝える活動に慣れてきた。学習上で Web 検索した内容について報告を行い、周囲に知らせることができるようになってきた。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

学校で「LINE」の「タイムライン」に毎日の記録をつけたことで、文章で表現する活動に慣れてきた。保護者の支援もあり「LINE」で使用する「スタンプ」の種類も増え、気持ちに合わせて「スタンプ」を選べるようになってきた。2学期後半からは自主通学に向けての「帰宅連絡」を「トーク」で行うようになり、「トーク」の書き込みと「スタンプ」の使用が増えた。日常の授業や「交流及び共同学習」といった校外の学習においても iPad を使う機会が増え、本人が意欲的に取り組めることや iPad でやりとりする機会が増えた。

### ・エビデンス(具体的数値など)

①写真による記録や「タイムライン」への書き込みによって出来事の詳細を記憶より引き出しやすくなり、保護者も手がかりが増え、文章記述の支援がしやすくなった。人物や感情の表記が増えた。



「タイムライン」：1 学期の様子

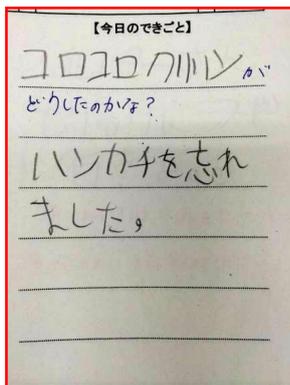


「タイムライン」：2 学期の様子

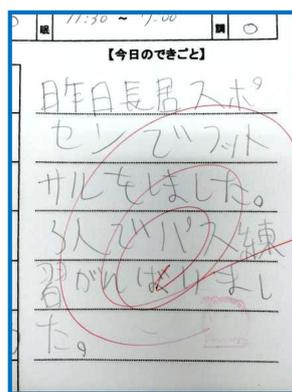


「タイムライン」：3 学期の様子

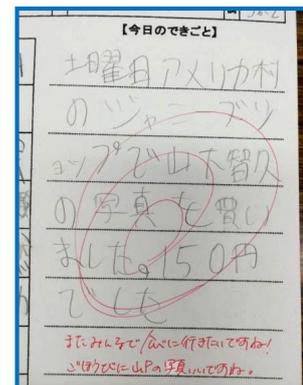
### アプリ「LINE」での「タイムライン」への記述



4月当初



11月



12月

### 「連絡帳」への記述

以前は「今日のできごと」が宿題になると、断片的に書いていた。また日々の学校での様子がわからない保護者が支援することも難しかった。現在は、日々の記録としての写真や「タイムライン（トーク）」への書き込みをヒントに感情表記も含めて記述するようになり、休日も同じような方法で記述するようになった。

②「タイムライン」と「トーク」の併用を行ってきたが、本人は慣れてくると相手とのやりとりは「トーク」が中心となった。「トーク」の書き込みや返事の増加とともに「スタンプ」の使用も増えた。スタンプの種類も豊富になり、より気持ちにあったスタンプを使用していることから、相手からの書き込みをよく理解できていると考える。

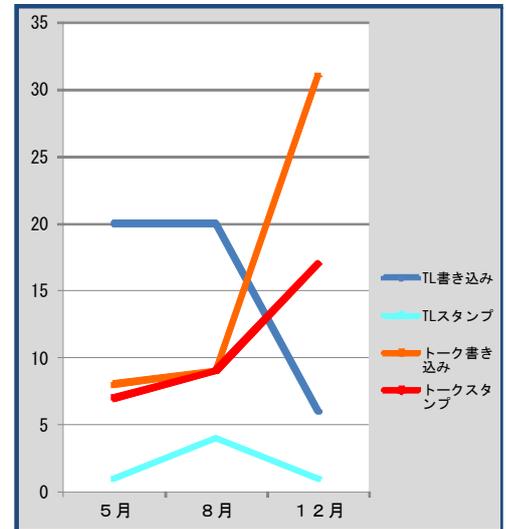


「トーク」1学期(左上)

「トーク」2~3学期(下段)



※自宅のみ(学校での書き込みはのぞく。学校ではタイムラインでほぼ毎日書き込みを行った。)



当初は文字でのやりとりに慣れず、保護者や担任の支援が必要だった。最近では書き込みややりとりの内容に応じて、自分でスタンプを選択し、使用できるようになってきた。電話連絡についてはまだ課題はあるが、「LINE」を活用した「帰宅連絡」についてはスムーズに行えるようになってきた。

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

「タイムライン」への投稿を毎日続けることで、振り返りが定着し、教員も質問しやすくなり、帰りのホームルームでの「今日の感想」などの発表もスムーズに行えるようになってきた。また日常の中で、周囲の友だちが興味を持って対象生徒の周りに集まり、週末の様子と一緒にチェックしたり、話したりするようになり、写真を媒介に、家族・友人・周囲の人に話しかけられることが増え、会話する機会が増えた。今までは「報告」することに困難さがあったが、写真を撮って示すなどして伝える手段も獲得しつつある。さらに2学期半ばよりiPhoneを携帯するようになった。最近では保護者や教員以外に、iPhoneを用いて友だちとメールや「LINE」でやりとりを楽しめるようになり、プライベートの活動が増えてきた。



### 【今後の見通しについて】

今後は本人の活動形態を考慮し、iPhoneの活用も視野にいれ、継続してコミュニケーションスキルに関する支援を行っていききたい。2学期より取組んできた「帰宅連絡」を発展させて、「報告」のスキルや習慣を定着させていき、「困った時の支援」を求める力を獲得できるようにしたい。自主通学や持ち物・スケジュールの管理などさらに自分でできることを増やしていききたいと考える。またプライベートで「LINE」やインターネット、アプリの活用が増加することで懸念されるトラブル等については保護者と連携しながら、十分に配慮していききたいと考える。